

表10-1 現在機能している地縁組織

	全体		Aグループ		Bグループ	
1位	字会・町会・自治会	89.9 %	字会・町会・自治会	94.3 %	字会・町会・自治会	83.7 %
2位	老人会	87.4 %	老人会	94.3 %	老人会	77.6 %
3位	防災協会・消防団	73.1 %	防災協会・消防団	72.9 %	防災協会・消防団	71.4 %
4位	P T A	70.6 %	P T A	72.2 %	P T A	67.3 %
5位	体育協会	57.1 %	子ども会	67.1 %	商店街組合	63.3 %
6位	子ども会	62.2 %	商店街組合	62.9 %	婦人会	58.7 %
7位	商店街組合	63.0 %	公民館	62.5 %	子ども会	55.1 %
8位	婦人会	58.5 %	体育協会	61.4 %	地区	53.1 %

表10-2 現在機能している地縁組織 n=119 (100.0%)

地縁組織		Aグループ		Bグループ		P
隣組	機能している	19	(27.1%)	機能している	24	(27.1%)
	機能していない	24	(72.9%)	機能していない	25	(72.9%)
地区(班)	機能している	40	(57.1%)	機能している	26	(53.1%)
	機能していない	30	(42.9%)	機能していない	23	(46.9%)
字会・町会・自治会	機能している	66	(94.3%)	機能している	41	(83.7%)
	機能していない	4	(5.7%)	機能していない	8	(16.3%)
商店街組合	機能している	44	(62.9%)	機能している	31	(63.3%)
	機能していない	26	(37.1%)	機能していない	18	(36.7%)
公民館・公会堂	機能している	44	(62.9%)	機能している	24	(49.0%)
	機能していない	26	(37.1%)	機能していない	25	(51.0%)
子ども会	機能している	47	(67.1%)	機能している	27	(55.1%)
	機能していない	23	(32.9%)	機能していない	22	(44.9%)
婦人会	機能している	43	(61.4%)	機能している	29	(59.2%)
	機能していない	27	(38.6%)	機能していない	20	(40.8%)
青年会	機能している	19	(27.1%)	機能している	16	(32.7%)
	機能していない	51	(72.9%)	機能していない	33	(67.3%)
老人会	機能している	66	(94.3%)	機能している	38	(77.6%)
	機能していない	4	(5.7%)	機能していない	11	(22.4%)
壮年者の会	機能している	8	(11.4%)	機能している	7	(14.3%)
	機能していない	62	(88.6%)	機能していない	42	(85.7%)
防災協会・消防団	機能している	52	(74.3%)	機能している	35	(71.4%)
	機能していない	18	(25.7%)	機能していない	14	(28.6%)
農業委員会	機能している	38	(54.3%)	機能している	22	(44.9%)
	機能していない	32	(45.7%)	機能していない	27	(55.1%)
P T A	機能している	51	(72.9%)	機能している	33	(67.3%)
	機能していない	19	(27.1%)	機能していない	16	(32.7%)
体育協会	機能している	43	(61.4%)	機能している	25	(51.0%)
	機能していない	27	(38.6%)	機能していない	24	(49.0%)
檀家	機能している	28	(40.0%)	機能している	22	(44.9%)
	機能していない	42	(60.0%)	機能していない	27	(55.1%)
氏子会	機能している	25	(35.7%)	機能している	18	(36.7%)
	機能していない	45	(64.3%)	機能していない	31	(63.3%)

χ²検定 * P<.05

表11: ボランティア団体やNPO団体の活動状況

N:市町村数

	非情に活発だ		まあ活発だ		あまり活発でない		活発でない		合計	
全体	3	2.5 %	59	50 %	52	44.1 %	4	3.4 %	118	100.0 %
A	3	4.3 %	32	45.7 %	31	44.3 %	4	5.7 %	70	100.0 %
B	0	0.0 %	27	56.3 %	21	44.1 %	0	0.0 %	48	100.0 %

※欠損値1

表12: 「高齢者」の日常生活圏域

N:市町村数

	徒歩で行ける		地区内		町内・自治会内		小学校区		中学校区		市町村全域	
全体	17	14.9 %	19	16.7 %	26	22.8 %	16	14 %	13	11.4 %	10	8.8 %
A	11	16.2 %	10	14.7 %	18	25.0 %	8	11.8 %	9	13.2 %	7	10.3 %
B	6	13.0 %	9	19.6 %	8	17.4 %	8	17.4 %	4	11.4 %	3	6.5 %
	その他		わからない		合計							
全体	7	6.1 %	5	4.4 %	114	100.0 %						
A	3	4.4 %	3	4.4 %	68	100.0 %						
B	4	8.0 %	2	4.3 %	46	100.0 %						

※欠損値5

図1-1 「高齢者」の日常生活圏域

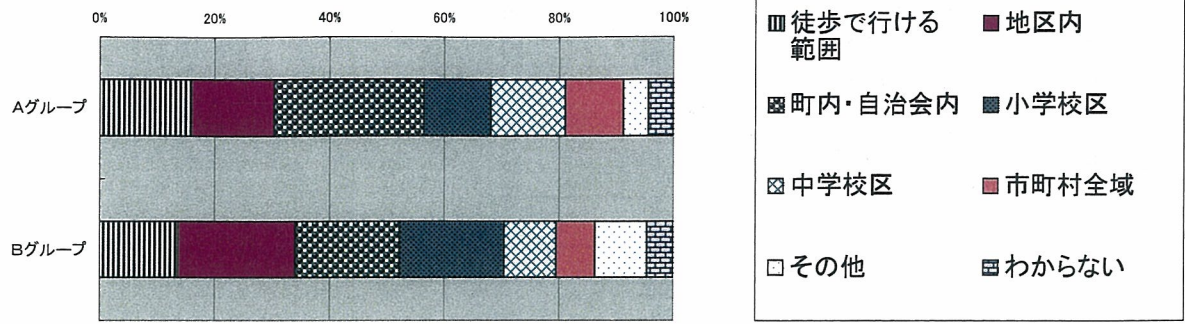


図1-2 人口規模別高齢者の日常生活圏域

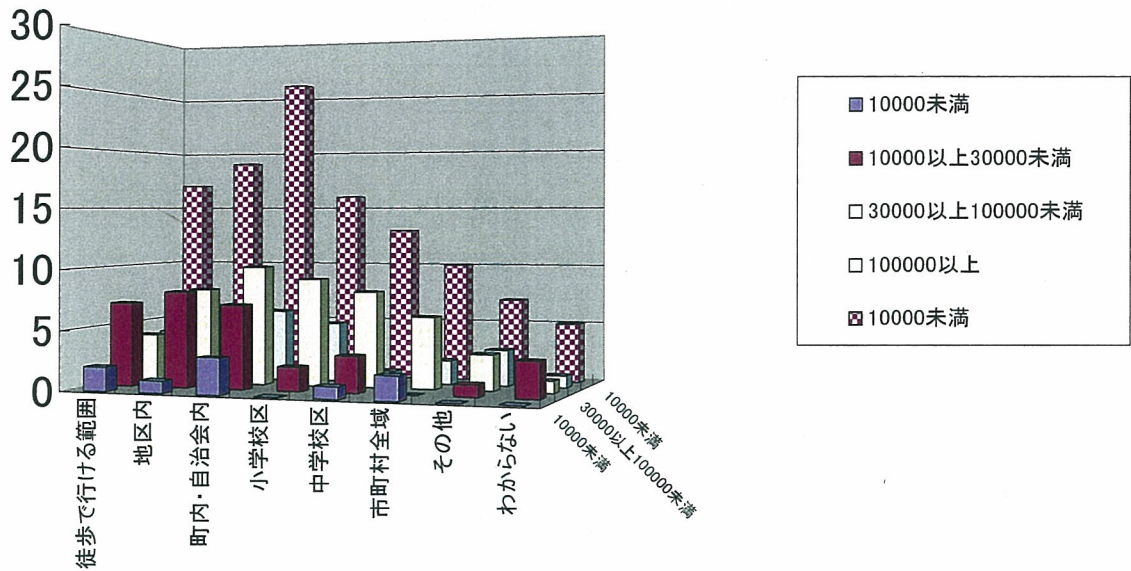


表13：合併から平成18年10月までの期間

	N (市町村数)	平均 (月数)	標準偏差 (月数)
全体	119	21.4	10.3
A	70	28.2	8.3
B	49	11.8	0.4

表14：合併の規模 (合併した市町村の総和)

	N (市町村数)	平均	標準偏差
全体	118	3.4	1.5
A	69	3.6	1.6
B	49	3.1	1.4

※欠損値1

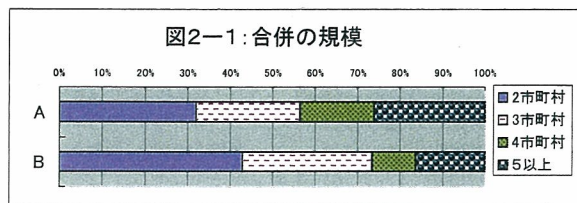


表15：合併形態

	新設合併		編入合併		その他		N ; 市町村数	
	数	%	数	%	数	%	合計	%
全体	91	77.8 %	19	16.2 %	6	5.1 %	117	100.0 %
A	54	79.4 %	12	17.6 %	2	2.9 %	68	100.0 %
B	37	75.5 %	7	14.3 %	4	8.2 %	49	100.0 %

※欠損値2

表16-1：合併後の旧市町村の保健センターの機能・役割

	変化なし		本所と分所機能に分けた		一部閉庁し集約した		その他		N ; 市町村数	
	数	%	数	%	数	%	数	%	合計	%
全体	42	37.2 %	37	32.7 %	26	23.0 %	8	7.1 %	113	100.0 %
A	20	29.4 %	20	29.4 %	22	32.4 %	6	8.8 %	68	100.0 %
B	22	48.9 %	17	37.8 %	4	8.9 %	2	4.4 %	45	100.0 %

※欠損値6

図2-2 旧市町村保健センターの現在の役割と高齢者の日常生活圏域

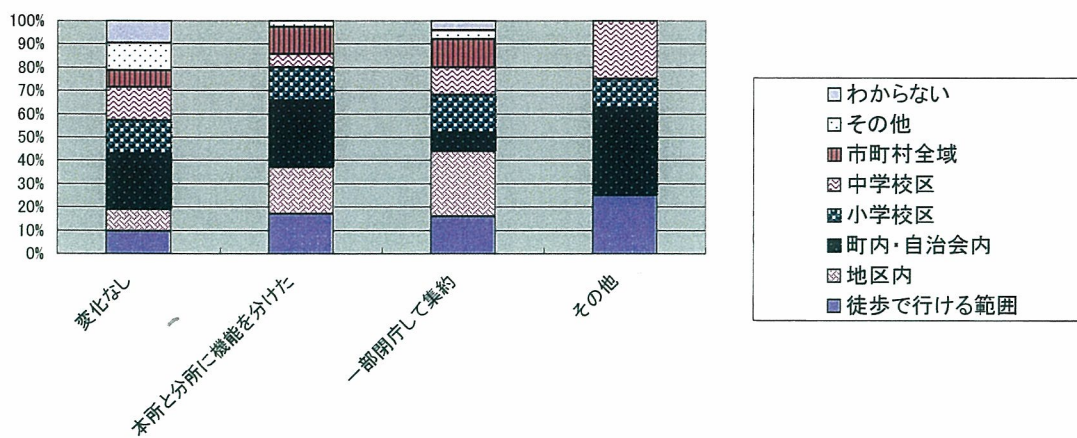


表16-2:「変化なし」の理由

N:市町村数

	とてあえず 従来通り	住民サービスの 維持	兼納・再編の 予定	その他	合計
全体	7 16.7 %	30 71.4 %	3 7.1 %	2 4.8 %	42 100.0 %
A	2 10.0 %	16 80.0 %	2 10.0 %	0 0.0 %	20 100.0 %
B	5 22.7 %	14 63.7 %	1 4.5 %	2 9.1 %	22 100.0 %

問17:合併後、保健福祉部門の職員として、業務上生じたと思われる変化

表17-1)利用できる施設やサービスメニューの変化

N:市町村数

	増えた	減った	変わらない	合計
全体	49 43.4 %	13 11.5 %	51 45.1 %	113 100.0 %
A	27 40.9 %	9 13.6 %	30 45.5 %	66 100.0 %
B	22 46.8 %	4 8.5 %	21 44.7 %	47 100.0 %

※欠損値6

表17-2)遠い住民のために、午前中の事業開始時刻の変更

N:市町村数

	開始時刻を 遅くした	午後にした	変わらない	合計
全体	4 3.5 %	0 0.0 %	110 96.5 %	112 100.0 %
A	3 4.5 %	0 0.0 %	64 95.5 %	66 100.0 %
B	1 2.1 %	0 0.0 %	47 97.9 %	46 100.0 %

※欠損値7

表17-3)健康教育の会場の変化

N:市町村数

	出張型が 増えた	保健センターでの開催が 増えた	変わらない	合計
全体	22 19.6 %	18 16.1 %	72 64.3 %	112 100.0 %
A	16 24.2 %	13 19.7 %	37 56.1 %	66 100.0 %
B	6 13 %	5 10.9 %	35 76.1 %	46 100.0 %

※欠損値7

表17-4)行政職員と住民の距離感の変化

N:市町村数

	近くなった	遠くなった	変わらない	合計
全体	1 0.9 %	48 42.5 %	64 56.6 %	113 100.0 %
A	1 1.5 %	35 52.2 %	31 46.3 %	67 100.0 %
B	0 0.0 %	13 28.3 %	33 71.7 %	46 100.0 %

※欠損値6

表17-5)全体の業務の中で家庭訪問の占める割合の変化

N:市町村数

	増えた	減った	変わらない	合計
全体	11 9.9 %	44 39.6 %	56 50.5 %	111 100.0 %
A	11 16.7 %	27 40.9 %	28 42.4 %	66 100.0 %
B	0 0.0 %	17 37.8 %	28 62.2 %	45 100.0 %

※欠損値8

表18:合併後、保健福祉部門の職員として、住民側に生じたと思われる変化

表18-1)日常的に用を足す範囲

N:市町村数

	拡大した	縮小した	変わらない	わからない	合計
全体	28 24.3 %	4 3.5 %	79 68.7 %	4 3.5 %	115 100.0 %
A	16 23.9 %	2 3.0 %	48 71.6 %	1 1.5 %	67 100.0 %
B	12 25.0 %	2 4.2 %	31 64.6 %	3 6.3 %	48 100.0 %

※欠損値4

表18-2)地域への愛着や連帯感

N:市町村数

	深まった	薄まった	変わらない	わからない	合計
全体	5 4.3 %	9 7.8 %	86 74.8 %	15 13.0 %	115 100.0 %
A	3 4.5 %	8 11.9 %	49 73.1 %	7 10.4 %	67 100.0 %
B	2 4.2 %	1 2.1 %	37 77.1 %	8 16.7 %	48 100.0 %

※欠損値4

表18-3)祭りや各種行事の開催状況

N:市町村数

	増えた	減った	変わらない	わからない	合計
全体	12 10.3 %	23 19.8 %	72 62.1 %	9 7.8 %	116 100.0 %
A	6 8.8 %	16 23.5 %	41 60.3 %	5 7.4 %	68 100.0 %
B	6 12.5 %	7 14.6 %	31 64.6 %	4 8.3 %	48 100.0 %

※欠損値3

表18-4)住民同士の交流について

N:市町村数

	増えた	減った	変わらない	わからない	合計
全体	45 38.8 %	4 3.4 %	55 45.8 %	12 10.3 %	116 100.0 %
A	27 39.7 %	3 4.4 %	30 43.1 %	8 11.8 %	68 100.0 %
B	18 37.5 %	1 2.1 %	25 50.0 %	4 8.3 %	48 100.0 %

※欠損値3

表19-1:合併前の、転倒骨折予防教室の実施状況

N:市町村数

	実施していた	実施して いなかった	わからない	合計
全体	103 87.3 %	13 11.0 %	2 1.7 %	118 100.0 %
A	60 85.7 %	10 14.3 %	0 0.0 %	70 100.0 %
B	43 89.6 %	3 6.3 %	2 4.2 %	48 100.0 %

※欠損値1

表19-2:対象者に「高齢者」は含まれていたか

N:市町村数

	はい	いいえ	わからない	合計
全体	95 92.2 %	5 4.9 %	2 2.0 %	103 100.0 %
A	53 89.8 %	4 6.8 %	2 3.3 %	59 100.0 %
B	42 95.5 %	1 2.3 %	0 0.0 %	44 100.0 %

表19-3：教室を運営する時、「高齢者」が参加しやすいように日常圏域を優先していたか N：市町村数

	はい		いいえ		わからない		合計	
全体	74	77.9 %	18	18.9 %	3	3.2 %	95	100.0 %
A	40	75.5 %	11	20.8 %	2	3.8 %	53	100.0 %
B	34	81.0 %	7	16.7 %	1	2.4 %	42	100.0 %

表20-1：合併後の現在、転倒骨折予防教室の実施状況 N：市町村数

	実施している		平成18年度より廃止		以前から実施していない		わからない		合計	
全体	85	73.9 %	21	18.3 %	9	7.8 %	0	0.0 %	114	100.0 %
A	50	74.6 %	12	17.9 %	5	7.5 %	0	0.0 %	66	100.0 %
B	35	72.9 %	9	18.8 %	4	8.3 %	0	0.0 %	48	100.0 %

※欠損値5

表20-2：対象者に「高齢者」は含まれていたか N：市町村数

	はい		いいえ		わからない		合計	
全体	77	90.6 %	5	5.9 %	3	3.5 %	85	100.0 %
A	43	86.0 %	4	8.0 %	3	6.0 %	50	100.0 %
B	34	97.1 %	1	2.9 %	0	0.0 %	35	100.0 %

表20-3：「平成18年度より廃止」の理由 (複数回答) N：市町村数

	対象者が少ない		身近な所に実施場所がない		財源がない		手がない		他事業に移行した		その他	
全体	1	4.0 %	0	0.0 %	3	12.0 %	1	4.0 %	19	76.0 %	1	4.0 %
A	1	5.9 %	0	0.0 %	2	11.8 %	1	5.9 %	12	70.5 %	1	5.9 %
B	0	0.0 %	0	0.0 %	1	12.5 %	0	0.0 %	7	87.5 %	0	0.0 %
合計												
全体	25	100.0 %										
A	17	100.0 %										
B	8	100.0 %										

表20-4：教室を運営する時、「高齢者」が参加しやすいように日常圏域を優先していたか N：市町村数

	はい		いいえ		わからない		合計	
全体	58	74.7 %	18	22.7 %	0	0.0 %	76	100.0 %
A	32	74.4 %	11	23.8 %	0	0.0 %	43	100.0 %
B	26	75.0 %	7	21.9 %	0	0.0 %	33	100.0 %

※欠損値1

表20-5：優先していない理由 N：市町村数

	優先させる必要を感じない		優先できない		わからない		合計	
全体	1	5.6 %	16	88.9 %	1	5.6 %	18	100.0 %
A	1	9.1 %	10	90.9 %	0	0.0 %	10	100.0 %
B	0	0.0 %	6	85.7 %	1	14.3 %	7	100.0 %

表20-6：「優先させる必要を感じない」「優先できない」理由 (複数回答) N：市町村数

	地理的条件		対象者が少ない		送迎の手段がある		身近な所に実施場所がない		財源がない		手がない	
全体	4	10.0 %	6	15.0 %	9	22.5 %	5	12.5 %	2	5.0 %	6	15.0 %
A	3	12.0 %	3	12.0 %	5	4.0 %	4	16 %	2	8.0 %	3	12.0 %
B	1	6.7 %	3	20.0 %	4	26.7 %	1	6.7 %	0	0.0 %	3	20.0 %
夜間、保健センターの位置												
その他												
全体	5	12.5 %	3	7.5 %	40	100.0 %						
A	2	8.0 %	3	12.0 %	25	100.0 %						
B	3	20 %	0	0.0 %	15	100.0 %						

表21-1：合併前の、生きがい活動支援通所事業（サロン）の実施状況 N：市町村数

	実施していた		実施していなかった		わからない		合計	
全体	100	84.7 %	16	13.6 %	2	1.7 %	118	100.0 %
A	60	85.7 %	9	12.9 %	1	1.4 %	70	100.0 %
B	40	83.3 %	7	14.6 %	1	2.1 %	48	100.0 %

※欠損値1

表21-2：対象者に「高齢者」は含まれていたか N：市町村数

	はい		いいえ		わからない		合計	
全体	97	96.0 %	4	4.0 %	0	0.0 %	101	100.0 %
A	58	95.1 %	3	4.9 %	0	0.0 %	61	100.0 %
B	39	97.5 %	1	2.5 %	0	0.0 %	40	100.0 %

※欠損値2

表21-3：事業を運営する時、「高齢者」が参加しやすいように日常圏域を優先していたか N：市町村数

	はい		いいえ		わからない		合計	
全体	78	80.4 %	18	18.6 %	1	1.0 %	97	100.0 %
A	51	87.9 %	7	12.1 %	0	0.0 %	58	100.0 %
B	27	69.2 %	11	28.2 %	1	2.6 %	39	100.0 %

表22-1：合併後の現在、生きがい活動支援通所事業（サロン）の実施状況

N：市町村数

	実施している		合併以降ずっと実施していない		平成18年度より廃止		わからない		合計	
全体	100	84.7 %	10	8.5 %	6	5.1 %	2	1.7 %	118	100.0 %
A	62	88.6 %	4	5.7 %	3	4.3 %	1	1.4 %	70	100.0 %
B	38	79.2 %	6	12.5 %	3	6.3 %	1	2.1 %	48	100.0 %

※欠損値1

表22-2：対象者に「高齢者」は含まれていたか

N：市町村数

	はい		いいえ		わからない		合計	
全体	95	95.0 %	5	5.0 %	0	0.0 %	100	100.0 %
A	59	95.2 %	3	4.8 %	0	0.0 %	62	100.0 %
B	36	94.7 %	2	5.3 %	0	0.0 %	38	100.0 %

表22-3：「平成18年度より廃止」の理由

(複数回答)

N：市町村数

	対象者が少ない		身近な所に実施場所がない		財源がない		手がない		他事業に移行した		その他	
全体	0	0.0 %	0	0.0 %	1	14.3 %	0	0.0 %	4	57.1 %	2	28.6 %
A	0	0.0 %	0	0.0 %	0	0.0 %	0	0.0 %	3	75.0 %	1	25.0 %
B	0	0.0 %	0	0.0 %	1	33.3 %	0	0.0 %	1	33.3 %	1	33.3 %
合計	7	100.0 %	4	100.0 %	3	100.0 %	0	0.0 %	8	100.0 %	4	100.0 %

表22-4：事業を運営する時、「高齢者」が参加しやすいように日常圏域を優先していたか

N：市町村数

	はい		いいえ		わからない		合計	
全体	77	81.1 %	15	15.8 %	3	3.2 %	95	100.0 %
A	52	88.1 %	5	8.5 %	2	3.4 %	59	100.0 %
B	25	69.4 %	10	27.8 %	1	2.8 %	36	100.0 %

表22-5：優先していない理由

N：市町村数

	優先させる必要を感じない		優先できない		わからない		合計	
全体	5	33.3 %	9	60.0 %	0	0.0 %	15	100.0 %
A	1	25.0 %	2	50.0 %	0	0.0 %	4	100.0 %
B	4	36.4 %	7	63.6 %	0	0.0 %	11	100.0 %

表22-6：「優先させる必要を感じない」「優先できない」理由(複数回答)

N：市町村数

	地理的条件		対象者が少ない		送迎の手段がある		身近な所に実施場所がない		財源がない		手がない	
全体	4	11.8 %	3	8.8 %	13	38.2 %	5	14.7 %	1	2.9 %	2	5.9 %
A	0	0.0 %	0	0.0 %	5	62.5 %	1	12.5 %	1	12.5 %	0	0.0 %
B	4	15.4 %	3	11.5 %	8	30.8 %	4	15.4 %	0	0.0 %	2	7.6 %
	役場、保健センターの位置		その他		合計							
全体	4	11.8 %	2	5.9 %	34	100.0 %						
A	1	12.5 %	0	0.0 %	8	100.0 %						
B	3	11.5 %	2	7.6 %	26	100.0 %						

表23-1：「高齢者」のための保健福祉サービスに関連する住民の自主的な活動の有無

N：市町村数

	ある		ない		わからない		合計	
全体	79	66.4 %	25	21.0 %	15	12.6 %	119	100.0 %
A	47	67.1 %	15	21.4 %	8	11.4 %	70	100.0 %
B	32	65.3 %	10	20.4 %	7	14.3 %	49	100.0 %

表23-2：閉じこもり予防を目的とした体操や食事会などの自主的な活動の有無

N：市町村数

	ある		ない		わからない		合計	
全体	73	92.4 %	3	3.8 %	3	3.8 %	79	100.0 %
A	45	95.7 %	2	4.3 %	0	0.0 %	47	100.0 %
B	28	92.4 %	1	3.1 %	3	9.4 %	32	100.0 %

表23-3：自主的な活動の範囲の単位(複数回答)

N：市町村数

	隣組		地区(班)		学舎・町会		公民館		小学校区		中学校区	
全体	4	3.7 %	18	16.8 %	43	40.2 %	20	18.7 %	8	7.5 %	1	0.9 %
A	1	1.7 %	9	15.0 %	25	41.7 %	11	18.3 %	5	8.3 %	0	0.0 %
B	3	6.4 %	9	12.8 %	18	38.3 %	9	19.1 %	3	6.3 %	1	2.1 %
	市町村全域		その他		わからない		合計					
全体	7	6.5 %	6	5.6 %	0	0.0 %	107	100.0 %				
A	5	8.3 %	4	6.7 %	0	0.0 %	60	100.0 %				
B	2	4.3 %	2	2.1 %	0	0.0 %	47	100.0 %				

表23-4：「高齢者」の日常生活圏域を意識していると思うか N：市町村数

	思う		思わない		わからない		合計	
全体	53	81.5 %	7	10.8 %	5	7.7 %	65	100.0 %
A	33	84.6 %	2	5.1 %	4	10.3 %	39	100.0 %
B	20	76.9 %	5	19.2 %	1	3.8 %	26	100.0 %

※欠損値2

表23-5：団体と保健福祉部門の職員とが、かかわりの有無 N：市町村数

	ある		ない		わからない		合計	
全体	67	91.8 %	6	8.2 %	0	0.0 %	73	100.0 %
A	40	88.9 %	5	11.1 %	0	0.0 %	45	100.0 %
B	27	96.4 %	1	3.6 %	0	0.0 %	28	100.0 %

表23-6：具体的関わりについて(複数回答) N：市町村数

	番面上 把握している		活動に 参加している		計画や運営に 関わっている		連絡会等に 顔を合わせる		その他		合計	
全体	26	29.9 %	40	46.0 %	21	24.1 %	15	17.2 %	21	24.1 %	87	100.0 %
A	16	22.5 %	21	29.5 %	13	18.3 %	8	11.3 %	13	18.3 %	71	100.0 %
B	10	19.2 %	19	36.5 %	8	15.4 %	7	13.5 %	8	15.4 %	52	100.0 %

表24-1：合併前に、住民と保健福祉部門の職員とが、保健福祉サービスや町づくりに
関して話し合う場の有無について

	あった		なかった		わからない		合計	
全体	77	65.3 %	33	28.0 %	8	6.8 %	118	100.0 %
A	49	70.0 %	18	25.7 %	3	4.3 %	70	100.0 %
B	28	58.3 %	15	31.3 %	5	10.4 %	48	100.0 %

表24-2：具体的話し合いの場について(複数回答) N：市町村数

	地区懇談会		保健福祉事業の中で 事業のあり方について話し合う		保健福祉事業関連の会議・ワーキ ンググループの会議		まちづくり 協議会		まちづくりに関するワー クショップ		その他		合計	
全体	36	25.5 %	24	17.0 %	50	43.9 %	12	8.5 %	8	5.7 %	11	7.8 %	141	100.0 %
A	25	28.4 %	14	15.9 %	31	35.2 %	17	8.0 %	6	6.8 %	5	5.7 %	88	100.0 %
B	11	20.6 %	10	18.9 %	19	35.8 %	5	9.4 %	2	3.8 %	6	11.3 %	53	100.0 %

表24-3：合併後の現在、住民と保健福祉部門の職員とが、保健
福祉サービスや町づくりに関して話し合う場の有無

	ある		ない		わからない		合計	
全体	86	74.1 %	23	19.8 %	7	6.0 %	116	100.0 %
A	55	80.9 %	11	16.2 %	2	2.9 %	68	100.0 %
B	31	64.6 %	12	25.2 %	5	10.4 %	48	100.0 %

表24-4：具体的な話し合いの場について(複数回答) N：市町村数

	地区懇談会		保健福祉事業の中で 事業のあり方について話し合う		保健福祉事業関連の会議・ワーキ ンググループの会議		まちづくり 協議会		まちづくりに関するワー クショップ		合計	
全体	34	23.9 %	22	15.5 %	53	37.3 %	19	13.4 %	14	9.9 %	142	100.0 %
A	26	26.3 %	13	13.1 %	36	36.4 %	12	12.1 %	12	12.1 %	99	100.0 %
B	8	18.6 %	9	20.9 %	17	53.3 %	7	16.2 %	2	4.7 %	43	100.0 %

表25：第4次介護保険計画での日常生活圏域の設定にあたり、考慮すべきとした事柄(複数回答) N：市町村数

	地理的条件		人口		高齢化率		交通事情		介護給付等対策サービスを提供 するための施設の整備状況		旧行政区域		地縁的組織	
全体	64	15.9 %	54	13.3 %	43	10.6 %	48	11.9 %	47	11.6 %	63	15.6 %	3	2.5 %
A	35	14.8 %	32	13.6 %	26	11.1 %	29	12.3 %	25	10.6 %	42	17.7 %	2	2.8 %
B	29	17.5 %	22	13.3 %	17	10.3 %	19	11.5 %	22	13.3 %	21	12.5 %	1	2.2 %
	学校区		公民館の 対象区域		住民の 自主的な活動		未設定		その他		合計			
全体	45	11.1 %	14	3.5 %	13	3.2 %	3	0.7 %	8	1.9 %	405	100.0 %		
A	22	9.3 %	11	4.7 %	8	3.5 %	2	0.8 %	4	1.6 %	238	100.0 %		
B	23	13.8 %	3	1.8 %	5	3.0 %	1	0.6 %	4	2.4 %	167	100.0 %		

【H17年とH18年との比較；Aグループ】

表26：合併後、保険福祉部門の職員として、業務上生じたと思われる変化

表26-1：利用できる施設やサービスメニューの変化

N：市町村数

	増えた		減った		変わらない		合計	
H17年	45	67.2 %	5	7.5 %	17	25.4 %	67	100.0 %
H18年	27	40.9 %	9	13.6 %	30	45.5 %	66	100.0 %

表26-2：遠い住民のために、午前中の事業開始の変更について

N：市町村数

	開始時刻を遅くした		午後にした		変わらない		無回答		合計	
H17年	3	4.5 %	0	0.0 %	63	94.0 %	1	1.5 %	67	100.0 %
H18年	3	4.5 %	0	0.0 %	64	95.5 %	0	0.0 %	66	100.0 %

表26-3：健康教育の会場の変更

N：市町村数

	出張型が増えた		保健センターでの開催が増えた		変わらない		無回答		合計	
H17年	8	11.9 %	14	20.9 %	45	67.2 %	0	0.0 %	67	100.0 %
H18年	16	24.2 %	13	19.7 %	37	56.1 %	0	0.0 %	66	100.0 %

表26-4：行政職員と住民の距離感の変化

N：市町村数

	近くなった		遠くなった		変わらない		無回答		合計	
H17年	0	0.0 %	27	40.3 %	40	59.7 %	0	0.0 %	67	100.0 %
H18年	1	1.5 %	35	52.2 %	31	46.3 %	0	0.0 %	67	100.0 %

表26-5：全体の業務の中で家庭訪問の占める割合の変化

N：市町村数

	増えた		減った		変わらない		無回答		合計	
H17年	6	9.0 %	25	37.3 %	36	57.3 %	0	0.0 %	67	100.0 %
H18年	11	16.7 %	27	40.9 %	28	42.4 %	0	0.0 %	66	100.0 %

表27：合併後、保健福祉部門の職員として、住民側に生じたと思われる変化

表27-1：日常的に用を足す範囲の変化

N：市町村数

	拡大した		縮小した		変わらない		わからない		合計	
H17年	19	28.4 %	1	1.5 %	42	62.7 %	5	7.5 %	67	100.0 %
H18年	16	23.9 %	2	3.0 %	48	71.6 %	1	1.5 %	67	100.0 %

表27-2：地域への愛着や連帯感の変化

N：市町村数

	深まった		薄まった		変わらない		わからない		無回答		合計	
H17年	6	9.0 %	9	13.4 %	38	56.7 %	14	20.9 %	0	3.4 %	67	100.0 %
H18年	3	4.5 %	8	11.9 %	49	73.1 %	7	10.4 %	0	0.0 %	67	100.0 %

表27-3：祭りや各種行事の開催の変化

N：市町村数

	増えた		減った		変わらない		わからない		合計	
H17年	18	26.9 %	9	13.4 %	37	55.2 %	3	4.5 %	67	100.0 %
H18年	6	8.8 %	16	23.5 %	41	60.3 %	5	7.4 %	68	100.0 %

表27-4：住民同士の交流の変化

N：市町村数

	増えた		減った		変わらない		わからない		合計	
H17年	31	46.3 %	2	3.0 %	25	37.3 %	9	13.4 %	67	100.0 %
H18年	27	39.7 %	3	4.4 %	30	43.1 %	8	11.8 %	68	100.0 %

図3 高齢者の生活圏域(2年間の比較):Aグループ

市町村数

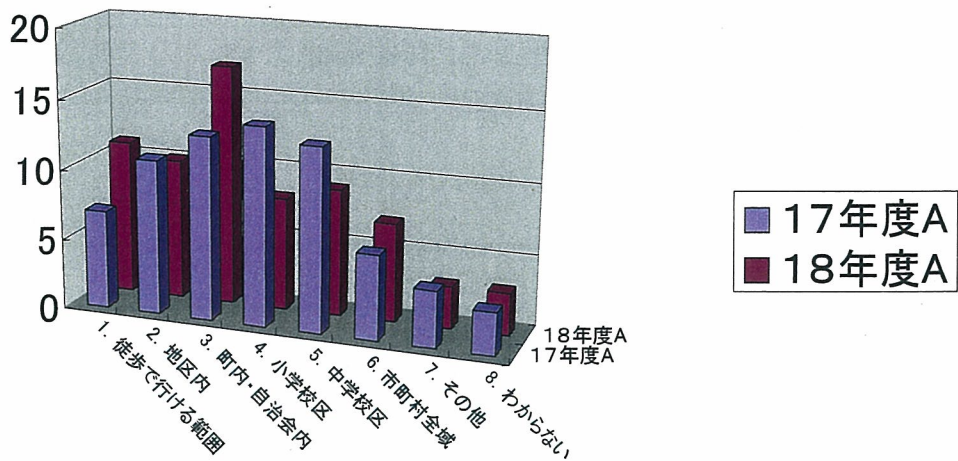
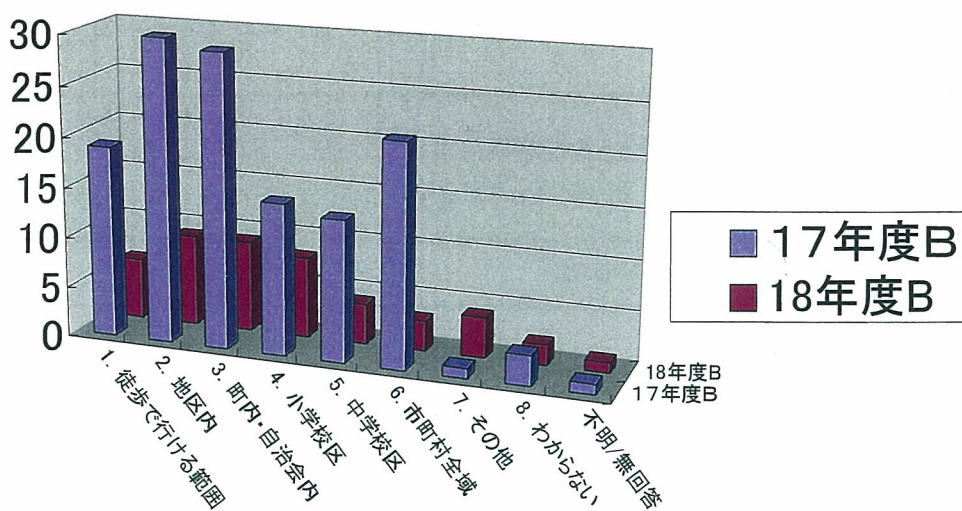


図4 高齢者の日常生活圏域(2年間の比較):Bグループ

市町村数



ラベル貼付欄
市町村名
市町村コード
整理番号

地域保健福祉従事者用(合併済)

平成18年度市町村合併に伴う日常生活圏域と保健福祉サービスの提供のあり方等に関する調査票

市町村の概況について伺います。

問1 回答される方の職種の番号一つに○をつけてください。(○は1つだけ)

1. 事務職 2. 保健師 3. その他の技術職()

問2 人口は 人(平成18年4月1日現在)

問3 面積は (可能な範囲でお答えください。) km²

問4 高齢化率は % (平成18年4月1日現在)

問5 地理的特性にあてはまるものの番号一つに○をつけてください。(○は1つだけ)

1. 大都市中心部 2. 大都市郊外部 3. 地方中心都市 4. 地方小都市 5. 農山漁村 6. 離島
7. その他()

問6 現市町村の地域社会が形成された主な経緯は以下のどちらに近いですか。
あてはまるものの番号一つに○をつけてください。(○は1つだけ)

1. 自然発生的 2. 計画的開発型 3. その他()

問7 市町村の産業構造は次のどれに当たりますか。あてはまるものの番号一つに○をつけてください。
(○は1つだけ)

1. 第1次産業中心型(農業、林業、漁業)
2. 第2次産業中心型(鉱業、建設業、製造業)
3. 第3次産業中心型(運輸・通信業、卸売・小売、飲食店、金融・保険業、不動産業、サービス業等)
4. その他 ()

問8 住民の方の永住志向は全体として強い方ですか、それとも弱い方ですか。あてはまるものの番号一つに○をつけてください。(○は1つだけ)

1. 強い方だ 2. どちらかといえば強い方だ 3. どちらかといえば弱い方だ 4. 弱い方だ

問9 高齢者住民が日頃利用される主な交通手段は次のどれですか。
もっとも利用されているものの番号一つに◎印を、次いで利用されているものの番号一つに○印をつけてください。(◎印と○印はそれぞれひとつずつ)

1. 公共交通機関(電車・バス) 2. 自家用車 3. 自転車 4. 徒歩 5. その他()

あなたの市町村における住民の活動の状況について伺います。

問 10 地縁的な組織として機能しているものは、次のどれですか。あてはまるものの番号全てに○をつけてください。(○はいくつでも)

1. 隣組	2. 地区(班)	3. 字会・町会・自治会	4. 商店街組合	5. 公民館・公会堂	
6. 子ども会	7. 婦人会	8. 青年会	9. 老人会	10. 壮年者の会	11. 防災協会・消防団
12. 農業委員会	13. PTA	14. 体育協会	15. 檀家	16. 氏子会	17. その他()

問 11 ボランティア団体やNPO団体の活動は全般的に活発ですか。あてはまるものの番号 1つに○をつけてください。(○は1つだけ)

1. 非常に活発だ	2. まあ活発だ	3. あまり活発ではない	4. 活発でない
-----------	----------	--------------	----------

市町村合併について伺います。

問 12 一番新しい合併はいつ、どのような規模で行われましたか。

合併の時期: 平成()年 ()月合併	
合併の規模: 合併以前は()市()町()村	記入例 (1)市 (2)町 (0)村

問 13 合併形態はどちらでしたか。以下の中からあてはまるものの番号 1つに○をつけてください。(○は1つだけ)

1. 新設合併	2. 編入合併	3. その他()
---------	---------	-----------

問 14 合併後、旧市町村の保健センターはどのような機能・役割を担っていますか。以下の中からあてはまるものの番号 1つに○をつけてください。(○は1つだけ)

1. 変化なし(従来の機能・役割をそのまま維持)→問15△	2. 本所と分所機能に分けた→問16△
3. 一部閉庁し集約した→問16△	4. その他() →問16△

問 15 問14で「1. 変化なし」と答えられた方に伺います。その理由は何ですか。あてはまるものの番号に○をつけてください。(○はいくつでも)

1. 合併から間が無くとりあえず従来通り	2. 住民サービスの維持のため
3. 集約・再編が近々予定されている	4. その他()

問 16 合併後、保健福祉部門の職員として、業務上生じたと思われる変化はありますか。

各々の項目ごとに、あてはまるものの番号 1つに○をつけてください。(○はそれぞれ1つずつ)

1) 利用できる施設やサービスメニューが…	1. 増えた	2. 減った	3. 変わらない
2) 遠い住民のために、午前中の事業開始は…	1. 開始時刻を遅くした	2. 午後にした	3. 変わらない
3) 健康教育の会場は…	1. 出張型が増えた	2. 地区で行うよりも保健福祉センターでの開催が増えた	3. 変わらない
4) 行政職員と住民の距離感は…	1. 近くなった	2. 遠くなった	3. 変わらない
5) 全体の業務の中で家庭訪問の占める割合は…	1. 増えた	2. 減った	3. 変わらない
6) その他	()		

問 17 合併後、保健福祉部門の職員として、住民側に生じたと思われる変化はありますか。

各々の項目ごとに、あてはまるものの番号 1つに○をつけてください。(○はそれぞれ1つずつ)

1) 日常的に用を足す範囲(買い物、レクリエーション、地域交流など)が…	1. 拡大した	2. 縮小した	3. 変わらない	4. わからない
2) 地域への愛着や連帯感は…	1. 深まった	2. 薄まった	3. 変わらない	4. わからない
3) 祭りや各種行事の開催が…	1. 増えた	2. 減った	3. 変わらない	4. わからない
4) 住民同士の交流が…	1. 増えた	2. 減った	3. 変わらない	4. わからない
5) その他	()			

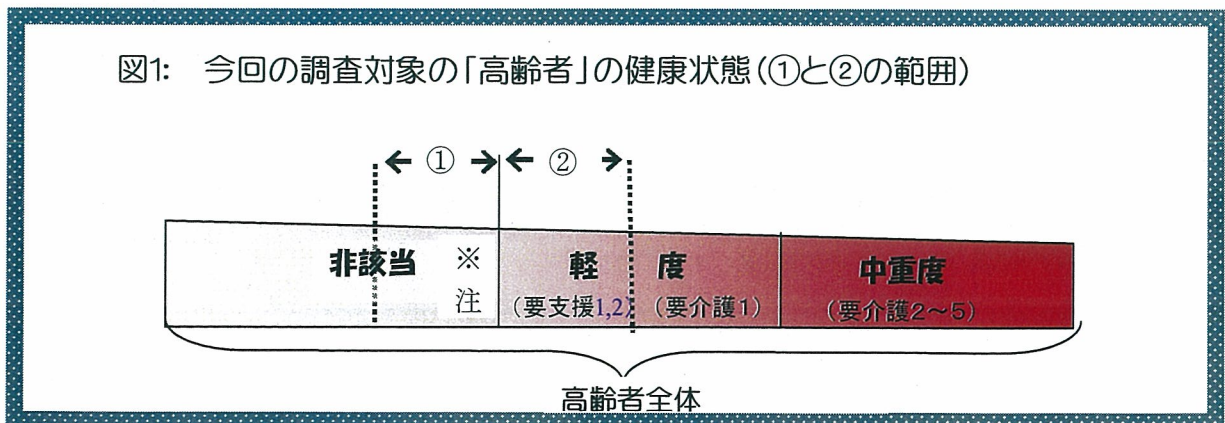
保健福祉サービスの提供と、住民の方の日常生活圏について伺います。

高齢者のための事業について伺います。

ここでいう「高齢者」とは、介護保険を申請したら

①「非該当」ではあるが「要支援」の状態におちいる恐れのある高齢者と②「要支援 1.2」の状態にある高齢者です。

※注: なお①の高齢者には介護保険の特定高齢者以外の高齢者も含まれます。



続きがあります→

以下の質問について、図1の矢印の範囲(①と②の範囲)にあるレベルの高齢者を想定して回答ください。

問 18 図1の「高齢者」の日常生活圏域は、おおよそどの範囲ですか。あてはまるものの番号1つに○をつけてください。(○は1つだけ)

※ここでいう日常生活圏域とは「住民が日常的に用をたしたり、人と交流したりする範囲」を指します。

- | | | | | |
|-------------|-----------|------------|---------|---------|
| 1. 徒歩で行ける範囲 | 2. 地区内 | 3. 町内・自治会内 | 4. 小学校区 | 5. 中学校区 |
| 6. 市町村全域 | 7. その他() | 8. わからない | | |

I. 転倒骨折予防教室について伺います。

問 19 合併前に、転倒骨折予防教室は実施されていましたか。あなたが所属していた旧自治体の状況について、あてはまるものの番号1つに○をつけてください。(○は1つだけ)

- | | | |
|----------------|-------------------|---------------|
| 1. 実施していた→問20△ | 2. 実施していなかった→問21△ | 3. わからない→問21△ |
|----------------|-------------------|---------------|

問20 問19で「1. 実施していた」と答えた方に伺います。

問20-1 対象者にp3;図1の「高齢者」は含まれていましたか。あてはまるものの番号1つに○をつけてください。(○は1つだけ)

- | | | |
|--------------|-------------|---------------|
| 1. はい→問20-2△ | 2. いいえ→問21△ | 3. わからない→問21△ |
|--------------|-------------|---------------|

問20-2 問20-1で「1. はい」と答えた方に伺います。

教室を運営する時、p3;図1の「高齢者」が参加しやすくなるように日常生活圏域(*)を優先していましたか。あてはまるものの番号1つに○をつけてください。(○は1つだけ)

※ここでいう日常生活圏域とは「住民が日常的に用をたしたり、人と交流したりする範囲」を指します。

- | | | |
|-------|--------|----------|
| 1. はい | 2. いいえ | 3. わからない |
|-------|--------|----------|

問21 合併後の現在、転倒骨折予防教室は実施されていますか。あてはまるものの番号1つに○をつけてください。(○は1つだけ)

- | | | | |
|----------------|--------------------|---------------------|---------------|
| 1. 実施している→問22△ | 2. 平成18年度より廃止→問23△ | 3. 以前から実施していない→問24△ | 3. わからない→問24△ |
|----------------|--------------------|---------------------|---------------|

問 22 問21で「1. 実施している」と答えた方に伺います。

問 22-1 教室の対象者にp3;図1の「高齢者」は含まれていますか。あてはまるものの番号1つに○をつけてください。(○は1つだけ)

- | | | |
|--------------|-------------|---------------|
| 1. はい→問22-2△ | 2. いいえ→問24△ | 3. わからない→問24△ |
|--------------|-------------|---------------|

問 22-2 問 22-1 で「1. はい」と答えた方に伺います。

教室を運営する時、図1の「高齢者」が参加しやすくなるように日常生活圏域(※)を優先して
いますか。あてはまるものの番号 1つに○をつけてください。(○は1つだけ)

※ここでいう日常生活圏域とは「住民が日常的に用をたしたり、人と交流したりする範囲」を指します。

1. はい→問 24 へ

2. いいえ→問 22-3 へ

3. わからない→問 24 へ

問 22-3 問 22-2 で「2. いいえ」と答えた方に伺います。

優先していない理由は何ですか。あてはまるものの番号 1つに○をつけてください。
(○は1つだけ)

1. 優先させる必要を感じない→問 22-4 へ

2. 優先できない→問 22-4 へ

3. わからない→問 24 へ

問 22-4 問 22-3 で「1. 優先させる必要を感じない」と「2. 優先できない」と答えた方に伺います。
その理由は何ですか。該当するものの番号全てに○をつけてください。(○はいくつでも)

1. 地理的条件(面積や地形、気候などの自然的条件) 2. 対象者が少ない 3. 送迎の手段がある
4. 身近な所に実施場所がない 5. 財源がない 6. 人手がない 7. 役場、保健センターの位置
8. その他()

問 23 問 21 で「2. 平成18年度より廃止」と答えた方に伺います。

その理由は何ですか。該当するものの番号全てに○をつけてください。(○はいくつでも)

1. 対象者が少ない 2. 身近な所に実施場所がない 3. 財源がない(補助金が無くなった)
4. 人手がない 5. 他事業に移行した 6. その他()

II. 生きがい活動支援通所事業(サロン)について伺います。

問 24 合併前^前に、生きがい活動支援通所事業(サロン)は実施されていましたか。あなたが所属していた
旧自治体の状況について、あてはまるものの番号 1つに○をつけてください。(○は1つだけ)

1. 実施していた→問 25 へ

2. 実施していなかった→問 26 へ

3. わからない→問 26 へ

問 25 問 24 で「1. 実施していた」と答えた方に伺います。

問 25-1 対象者にp3:図1の「高齢者」は含まれていましたか。あてはまるものの番号 1つに○をつけて
ください。(○は1つだけ)

1. はい→問 25-2 へ

2. いいえ→問 26 へ

3. わからない→問 26 へ

続きがあります→

問 28 問 26 で「2.平成18年度より廃止」と答えた方に伺います。
その理由は何ですか。該当するものの番号全てに○をつけてください。(○はいくつでも)

- 1.対象者が少ない 2.身近な所に実施場所がない 3.財源がない(補助金が無くなった)
4.人手がない 5.他事業に移行した 6.その他()

住民の自主的な活動について伺います。

問 29 あなたの市町村では、p3:図1の「高齢者」のための保健福祉サービスに関連する住民の自主的な活動はありますか。あてはまるものの番号 1つに○をつけてください。(○は1つだけ)
※ここでいう住民の自主的な活動とは、「現段階で住民が自ら、計画や運営をしている活動」を指します。(行政からの働きかけをきっかけにして発展した活動も含まれます。)

- 1.ある →問 30△ 2.ない →問 31△ 3.わからない →問 31△

問 30 問 29 で「1.ある」と答えた方に伺います。

問 30-1 閉じこもり予防を目的とした体操や食事会などの自主的な活動はありますか。
あてはまるものの番号 1つに○をつけてください。(○は1つだけ)

- 1.ある →問 30-2△ 2.ない →問 31△ 3.わからない →問 31△

問 30-2 問 30-1 で「1.ある」と答えた方に伺います。これらの自主的な活動をしている団体と保健福祉部門の職員とが、かかわりを持つことがありますか。
あてはまるものの番号 1つに○をつけてください。(○は1つだけ)

- 1.ある →問 30-3と問 30-4と問 30-5△ 2.ない →問 31△ 3.わからない →問 31△

問 30-3 問 30-2 で「1.ある」と答えた方に伺います。それはどのような関わりですか。
あてはまるものの番号全てに○をつけてください。(○はいくつでも)

- 1.書面上把握している 2.活動に参加している 3.計画や運営に加わっている
4.連絡会等に顔を合わせる 5.その他()

続きがあります→

問 30-4 問 30-2 で「1. ある」と答えた方に伺います。
それらの自主的な活動はどの範囲を単位として活動していますか。
あてはまるものの番号全てに○をつけてください。(○はいくつでも)

- | | | | | | |
|----------|----------|--------------|------------|---------|---------|
| 1. 隣組 | 2. 地区(班) | 3. 字会・町会・自治会 | 4. 公民館・公会堂 | 5. 小学校区 | 6. 中学校区 |
| 7. 市町村全域 | 8. その他(|) | 9. わからない | | |

問 30-5 問 30-2 で「1. ある」と答えた方に伺います。
それらの自主的な活動は、p3:図1の「高齢者」の日常生活圏域を意識していると思いますか。
あてはまるものの番号 1つに○をつけてください。(○は1つだけ)

- | | | |
|-------|---------|----------|
| 1. 思う | 2. 思わない | 3. わからない |
|-------|---------|----------|

住民の保健福祉サービス等への参画について伺います。

問 31 合併前に、住民と保健福祉部門の職員とが、保健福祉サービスやまちづくりに関して、話し合う場がありましたか。あなたの所属していた旧自治体の状況について、あてはまるものの番号1つに○をつけてください。(○はひとつだけ)

- | | | |
|---------------|----------------|-----------------|
| 1. あった →問 32へ | 2. なかった →問 33へ | 3. わからない →問 33へ |
|---------------|----------------|-----------------|

問 32 問 31 で「1. あった」と答えた方にお聞きします。それは、どのような話し合いの場でしたか。
あてはまるものの番号全てに○をつけてください。(○はいくつでも)

- | |
|-----------------------------|
| 1. 地区懇談会 |
| 2. 保健福祉事業の中で事業のあり方について話し合う |
| 3. 保健福祉事業関連の会議・ワーキンググループの会議 |
| 4. まちづくり協議会 |
| 5. まちづくりに関するワークショップ |
| 6. その他() |

問 33 合併後の現在、住民と保健福祉部門の職員とが、保健福祉サービスやまちづくりに関して、話し合う場がありますか。あてはまるものの番号 1つに○をつけてください。(○は1つだけ)

- | | | |
|--------------|--------------|-----------------|
| 1. ある →問 34へ | 2. ない →問 35へ | 3. わからない →問 35へ |
|--------------|--------------|-----------------|

続きがあります→

問 34 問 33 で「1.ある」と答えた方にお聞きます。それは、どのような話し合いの場ですか。
あてはまるものの番号全てに○をつけてください。(○はいくつでも)

- | |
|-----------------------------|
| 1. 地区懇談会 |
| 2. 保健福祉事業の中で事業のあり方について話し合う |
| 3. 保健福祉事業関連の会議・ワーキンググループの会議 |
| 4. まちづくり協議会 |
| 5. まちづくりに関するワークショップ |
| 6. その他() |

ここまでで、住民の方の日常生活圏についてと、保健福祉サービスの提供についての質問は終了です。

最後に全ての方に、第4次介護保険計画について伺います。

第4次介護保険計画における日常生活圏域について伺います。

問35 第4次介護保険計画での日常生活圏域の設定にあたり、考慮すべきとした事柄は何ですか。
あてはまるものの番号全てに○をつけてください。(○はいくつでも)

- | | | | |
|----------------------------|-------------------------------|--------|-------------|
| 1. 地理的条件(面積や地形、気候などの自然的条件) | 2.人口 | 3.高齢化率 | |
| 4. 交通事情 | 5. 介護給付等対象サービスを提供するための施設の整備状況 | | |
| 6. 旧行政区域 | 7. 地縁的組織 | 8. 学校区 | 9. 公民館の対象区域 |
| 10. 住民の自主的な活動 | 11. 未設定 | | |
| 12. その他(以下の枠内にお書きください。) | | | |

以上で質問は終了です。ありがとうございました。

記入漏れがないか今一度ご確認の上、同封の返信用の封筒に入れて返送ください。

ご協力に感謝いたします。

厚生労働科学研究費補助金(政策科学推進研究事業)

分担研究報告書

高齢者の日常生活圏域と保健福祉サービス

分担研究者 鳩野 洋子 国立保健医療科学院公衆衛生看護部室長

渡戸 一郎 明星大学人文学部教授

島田 美喜 慈恵会医科大学看護学部助教授

井下 理 慶應義塾大学総合政策部教授

研究要旨

日常生活圏域の設定が日常生活に強い影響を与えると考えられる高齢者に対して聞き取り調査を行うことで、高齢者が捉える合併の影響を知ること、地域活動への参加の観点からの高齢者の日常生活圏域を含めた日常生活の実態を明らかにすることを目的に調査を実施した。

都市部、都市近郊、地方市、山村の4地域の全10自治体の高齢者159名(虚弱高齢者47名、一般高齢者112名)のデータを分析に用いた。

その結果、合併による影響に関しては、地域によってその捉え方は異なっているが、サービスに関しては、全般的にはサービスの質が低下したと捉えていた。日常生活については、高齢者の半数程度は地縁組織に所属しておらず、またほとんどの高齢者は自治体職員から町づくり等に関して意見を求められた経験がなかった。高齢者の日常生活圏域は、どの地域においても、虚弱高齢者の生活圏域(虚弱高齢者全体の平均:半径3.92 km)は一般高齢者の生活圏域(一般高齢者全体の平均:半径5.04 km)よりも狭かったが、この距離は健康度よりも地域特性によって規定されていた。すなわち、都市部の生活圏域が最も小さく、山村の高齢者の生活圏域的が最も広がった。

高齢者のサービスの提供のあり方を考える際には、地域性を十分考慮するとともに、高齢者自身にどのような圏域の設定やサービスの配置が望ましいのかを問いかけ話し合うことの必要性が示唆された。

キーワード:生活圏域 虚弱高齢者 一般高齢者 地域特性 参加

A. 研究目的

高齢者は、その身体機能の衰えにより、日常生活の圏域の設定がその暮らしに最も影響を受けると考えられる対象集団である。ことに地域で生活はしているものの、身体的に虚弱な高齢者に対する影響は大きいことが

考えられる。

そこで本研究においては、虚弱な高齢者(以下、虚弱高齢者とする)、およびそれ以外の特に身体的な不自由さを有しない高齢者(以下、一般高齢者とする)の日常生活圏域やそれに影響する要因を把握するととも

に、住民参加や交流の観点から高齢者の日常生活の実態を把握することを目的とした。

B. 研究方法

1) 調査対象

対象は65歳以上の高齢者である。

虚弱高齢者とは、介護保険で要支援、要介護1を受けているか、現状において介護保険の申請は行っていないものの、申請すれば前述のレベルに該当すると考えられる高齢者とした。一般高齢者は、虚弱高齢者に該当しない、特に日常生活において介助等を要することなく生活している高齢者と定義した。

2) 調査方法

調査は構成式の質問紙を用いた聞き取り調査である。対象の選定は、自治体の保健師を通じて選定を依頼した。対象自治体は都市部とそうでない地域等では高齢者の生活状況が大きく異なることを考慮して、地域特性を「都市部」「都市近郊」「地方市」「農山村」の4群とし、合併の有無を考慮して選定した。

この都市部、都市近郊、地方市、農山村の定義は、都市部とは大都市圏中心部(およそ戦前までに市街化が進んだ既成市街地)、都市近郊とは大都市圏郊外部(1960年代以降に開発された住宅地域)、地方市とは大都市圏以外の市、農山村とは地方圏の町村である。

3) 調査期間

平成18年2月～平成19年10月

4) 調査内容

調査内容は、属性、健康レベル、日常生活の中で特に外出状況にかかわること、自主的活動の参加状況、保健福祉サービスの活用状況、保健福祉サービス職員との関わり等である。また合併した市町村の住民に対しては、合併に伴う日常生活の変化や合併前後での

保健福祉サービスの利用状況と日常生活圏域とは関係について尋ねた。

5) 分析方法

地域特性別(都市部、都市郊外、地方市、山村)、健康度別(虚弱高齢者と一般高齢者)に、それぞれの回答割合を算出した。また生活圏域の範囲の測定には、対象者が週1回以上外出している外出先のうち、最も遠い外出先の本人の自宅からの直線距離を測定し、「日常生活圏の範囲」とした。

またこの日常生活圏域に影響する要因を検討するために、対象の属性別に日常生活圏の範囲の平均値と標準偏差を算出するとともに、平均値の差の検定を行った。統計解析にはSPSS Ver.13を用いた。有意水準5パーセント未満の場合を有意差ありとした。

4) 倫理的配慮

調査の依頼にあたり、対象者には本研究の意義や目的、参加は対象者の自由意思であること、また結果の公表において個人が特定されないことについて記載した文章を用いて調査者が説明した。説明に対する同意を得た上で、聞き取り調査を実施した。

C 研究結果

1) 対象地域の概要 (表1)

協力市町村の概要は表1に示したとおりである。10市区町村から協力を得た。合併を行った市町村の、合併から調査時点までの期間は4ヶ月～13ヶ月であった。

2) 回答者の属性 (表2)

回答者の属性は表2に示したとおりである。160名から回答を得たが、そのうち1名は65歳に達していなかったため除外し、159名のデータを分析に用いた。

回答者は女性が74.2%と約3/4を占め、ま